

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
国際テクニカルデザイン・自動車専門学校		平成3年9月27日		會澤 洋輔		〒323-0821 栃木県小山市三峯1丁目10番21号 (電話) 0285-28-0777		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人ティビシイ学院		昭和60年3月16日		理事長 齋藤 武士		〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5 (電話) 028-622-8110		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	一級自動車整備士学科		—	平成21年文部科学省 告示第25号			
学科の目的								
自動車業界で求められる、一級自動車整備士としての知識・技術及び接客マナー・応対を身に付けさせ、業界の発展を担う人材育成を目指す。								
認定年月日								
平成30年 2月27日								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	
4	昼夜	4601.9時間		1927.1時間		2984.4		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人		40人	0人	7人	0人	7人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出課時数・レポート提出及び科目修了試験を実施し総合的に評価する			
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月18日～3月31日			卒業・進級条件	専門科目の単位を全て取得 進級・卒業認定試験に合格 2つ以上の検定合格または精勤・皆勤			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者面談、家庭訪問、個別学習指導等			課外活動	■課外活動の種類 地域清掃活動・献血 ■サークル活動: 有			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 自動車販売会社、自動車・建機等整備の知識を必要とする業界 ■就職指導内容 模擬面接、作文・一般常識筆記試験対策等 ■卒業者数 10 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)			
				資格・検定名		種別	受験者数	合格者数
				一級小型自動車整備士 資格試験		②	10人	4人
				損害保険募集人試験 基礎単位		③	10人	10人
				損害保険募集人試験 自動車保険単位		③	10人	10人
				小型中古自動車査定士		③	6人	5人
				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				
中途退学の現状	■中途退学者 7 名 平成30年4月1日時点において、在学者115名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者108名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・在留資格更新不許可 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、家庭連絡、保護者面談、家庭訪問、個別学習指導等			■中途退学率 6.08 %				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 学費給付試験、グループ出願奨学金、大学・短大・社会人奨学金、自動車整備士奨学金、女性入学奨学金、後継者入学奨学金、家賃支援奨学金、一級自動車整備士奨学金、他 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 職業実践専門課程認定後、申請のため実績なし							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)							
当該学科のホームページURL	http://www.ovama.ac.jp/							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか「就職者数(関連分野)」は「学校基本調査」における「関連分野」に就職した者を記載します。また「その他」の欄は「関連分野」へのアルバイト者数や准

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

関係団体で組織される自動車整備振興会及び生徒の就業先となる自動車整備工場のご意見を広く聴取し、これからの整備事業に必要な知識・技術・経験を習得できるよう、授業科目・内容を精査、改善して即戦力の育成に注力し、自動車整備業界の健全な発達に貢献する。また、卒業生の就業先企業担当者からもヒヤリングを実施し、実務に必要とされる人物像を把握する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会を各種委員会(諮問機関)に位置付けし、学校委員と企業委員が連携し教育課程の編成に資する。学校は当該委員会の答申を受けて協議を行い、教務部において委員会の意見を活用して、新教育課程の編成に当たる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
後藤 雄祐	一般社団法人 栃木県自動車整備振興会 教育技術部 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
酒田 守視	亀田自動車株式会社 専務取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
鈴木 貴嘉	株式会社シンコー 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
萩原 肇	学校法人ティビシイ学院 国際テクニカルデザイン・自動車専門学校 教務部 次長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	学科責任者
石井 昌則	学校法人ティビシイ学院 国際テクニカルデザイン・自動車専門学校 教務部 科長代理	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	教職員
若林 茂行	学校法人ティビシイ学院 国際テクニカルデザイン・自動車専門学校 教務部 顧問	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	教職員
菊池 誠	学校法人ティビシイ学院 国際テクニカルデザイン・自動車専門学校 教務部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	教職員
池田 天	学校法人ティビシイ学院 国際テクニカルデザイン・自動車専門学校 教務部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	教職員
飯塚 敦	学校法人ティビシイ学院 国際テクニカルデザイン・自動車専門学校 教務部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	教職員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年7月30日 15:00～16:00

第2回 令和2年1月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・自動車整備士資格以外の各種資格取得について、業界で必要となる特別教育及び講習の追加実施。
- ・生徒指導に関し、まず職員が挨拶を率先して行い、礼儀を正すことにつながる取り組みを実施。
- ・自動車の電子化に伴い、電気回路測定機器・高度故障診断機器の活用を3・4年生の授業にて重点を置いていたが、1・2年生の授業においても重点的に実施することとした。
- ・企業実習の内容について、企業に任せるだけではなく本校からの要望を伝えることとした。
- ・新機構の点検整備手順を授業に取り入れ、これからの車両整備にも対応できるようにする。
- ・コミュニケーション能力向上のため、定期的なグループワークを取り入れる。
- ・故障診断器を利用した整備作業実習の追加
- ・より実践的な実習とお客様対応力向上を目的とした実習の追加
- ・職員指導力向上および即戦力育成のための情報確保
- ・電動化を見据えて実習車にPHV車両導入を検討
- ・自動車ディーラーによる技術研修の実施

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備業界で必要とされる知識・技能・技術の修得および新たな整備機器の必要性・利用法を学び、より実践的な実習を行うため、現場で活躍する整備士を講師として招き、これからの自動車整備に必要なスキルを把握する。また、地域の企業・自動車整備工場でのインターンシップを実施し、整備工場での実務を体験させていただくことで、整備の知識だけでなく社会人としてのマナー・応対を身に付けさせ、即戦力となれる人材育成を目指すことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実際に活躍する自動車整備士から作業のコツや整備機器の利用法等を学び、整備技術の向上を図る。インターンシップにおいては、実習先担当者の指導の下、自動車整備工場での実務を経験させていただき、生徒に日報及び報告書を企業担当者へ提出させ一連の実習を通じた評価をご記入いただき、その書類をもとに学修成果の評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
故障探究作業-2	点検作業における故障個所の発見および予防整備の必要性を、実際の故障事例をもとに現場の自動車整備士から指導していただく。	有限会社 デントリペア小山

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

即戦力になれる人材の育成を行うことを念頭に置き、自動車整備振興会や整備専門学校協会および企業等にて実施される研修に率先して参加し、日々進化する自動車の整備技術習得に努め、授業内容に反映させる。また、教員の各種資格取得を促進する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「新技術・車両診断研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会)
 期間:平成30年8月7日(火)～10日(金) 対象:自動車整備学科教員
 内容:ハイブリッドシステムの制御及び点検整備・電子制御系診断・燃料電池車・AED使用方法

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「JAMCA教職員夏季研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会)
 実施日:平成30年7月31日(火)～8月3日(金) 対象:一級自動車整備士学科教員
 内容:コーチング & コミュニケーション技法・講話・講義

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整備主任者技術講習」(連携企業:一般社団法人 栃木県自動車整備振興会)
 期間:令和元年8月29日(木) 対象:整備主任者選任教員
 内容:自動車カーディーラー講師より当該メーカーの整備技術を学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「JAMCA教職員夏季研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会)
 期間:令和元年7月29日(月)～8月2日(金) 対象:一級自動車整備士学科教員
 内容:コーチング & コミュニケーション技法・講話・講義

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校で掲げている教育目標及び方針として「資格取得に重点を置いた実務教育の重視」「即戦力としてのスペシャリストの育成」「学ぶことを大切にされた教育」があり、これらを充実させるため、学校関係者評価委員会を設置して自動車整備業界はもとより、整備業界関係者以外の社会全般で活躍している有識者より意見を頂き、学校運営・授業へ反映する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・建学の精神、目的、目標、育成人材像を明文化し、学生保護者に周知されているか。 ・整備業界のニーズに向けて方向づけているか。
(2) 学校運営	・学校の管理、運営体制が確立しているか。
(3) 教育活動	・カリキュラムの作成などの取り組みをしているか。 ・実践的職業教育が体系的に位置づけられているか。 ・授業評価の実施はあるか。 ・教員の指導力向上の取り組みがされているか。
(4) 学修成果	・整備士国家試験を始め、資格取得の向上が図られているか。 ・就職率の向上が図られているか。 ・退学率の低減が図られているか。
(5) 学生支援	・学科の教育目標に向けて、卒業後まで学生支援が整備され、活用されているか。
(6) 教育環境	・学科の教育目標に向けて、教育環境が整備され、活用されているか。
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか。 ・学納金は妥当か。
(8) 財務	・中長期的な財務基盤は安定しているか。 ・予算収支計画は有効かつ妥当なものか。 ・会計監査は適切に行われているか。 ・事務情報の公開の体制はできているか。
(9) 法令等の遵守	・学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検、評価の実施体制が確立しているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	・計画的、組織的に社会活動への取り組みを推進しているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において、例年の課題でもあるコミュニケーション能力向上と正しい生活習慣といった学生個人の資質向上および国家資格の取得状況について意見をいただいた。コミュニケーション能力向上に関しては、従前より実施している2年次の学校行事や実習授業における実習班の入れ替えを増やすなど、コミュニケーションを取らざるを得ない状況を作っているが、さらにグループワークを取り入れて周囲との協調性を養うこととした。学生個人の資質向上に関しては、まず社会生活の基本となる挨拶をしっかりとらせることを念頭に学校全体で「立ち止まり挨拶」を実施し、少しずつではあるが浸透している状況である。これに加え、学科では実習班毎に早朝当校日を設けて、校舎前にて全学生への挨拶活動を始めている。国家資格取得に関しては、以前より実施している対策授業において、受験許可試験と称して、月に一回のペースで模擬試験を実施し、個々の進度を前倒しさせる計画とした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
稲葉 公一	地域代表: 鮎菜	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	地域代表
宮本 敦子	PTA会長(デザイン・自動車・美容)	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	PTA
大山 順子	PTA会長(調理)	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	PTA
生島 大志	株式会社 アイズ 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生
後藤 雄祐	栃木県自動車整備振興会 教育技術部 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
酒田 守視	亀田自動車株式会社 専務取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
鈴木 貴嘉	株式会社シンコー 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
蓮見 公男	茨城県印刷工業組合 副理事長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
堀田 菜緒	おやまくまる一む デザイナー	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
杉浦 豊彦	栃木県文化協会 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
多田 慎也	株式会社 lifetone music	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員

小矢島 久雄	全日本司厨士協会 栃木県本部副会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
田中 一夫	和風ダイニング彩華 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
日向野 保	栃木県洋菓子協会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
樋口 勇一	ロワイヤル オーナーシェフ	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
山本 勝弘	国際美容協会 東北ブロック支部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
吉田 将人	有限会社 マジックコーポレーションリミテッド 取締役社長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 利彦	有限会社ブレア 専務取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
鈴木 千春	Heartfulone代表	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.ovama.ac.jp>

公表時期:令和元年9月6日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業と密接かつ組織的に連携体制を確保し、質の高い教育を提供し、その状況をホームページなどを活用し社会に広く本校の情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・建学の精神 ・教育目標及び計画 ・校長名、所在地、沿革歴史
(2)各学科等の教育	・入学者数 ・入学定員 ・在籍総数 ・進級、卒業要件 ・資格、検定実績 ・授業科目の概要
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み状況 ・実習の取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校、学科行事
(6)学生の生活支援	・学生支援の組織、取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い
(8)学校の財務	・貸借対照表 ・収支計算書
(9)学校評価	・学校関係者評価委員 ・自己評価 ・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	・留学生入学規定
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.ovama.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備士学科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		検定対策 (日本人対象)	JAMCAソーシャル検定、社会人としてのマナー、新入社員としての基本、現代社会のルール・マナー・モラル・常識	1 通	93.6	3	○			○	○			
	○		整備用語解説 (留学生対象)	語彙の読解、教科書の通読、専門用語解説	1 通	93.6	3	○			○	○			
○			エンジン 1	内燃機関の分類、4サイクル・2サイクル、エンジン本体の構造・機能、潤滑装置、冷却装置、吸排気装置、電子制御装置概要、燃料系統、点火系統 制御系等、エンジンの点検整備	1 通	90.0	3	○			○	○			
○			シャシ 1	総論、アクスル及びサスペンション、ホイール及びタイヤ、ブレーキ装置、フレーム及びボデー、潤滑及び潤滑剤、動力伝達装置、ステアリング装置、ホイールアライメント、シャシの点検・整備	1 通	108.0	4	○			○	○			
○			力学・数学 1	速度、加速度、軸トルク、駆動トルク、排気量、圧縮比、平均ピストンスピード、自動車の荷重、レッカー車の荷重、パスカルの原理、圧力、車速、出力、トルクコンバータの性能曲線	1 通	50.4	2	○			○	○			
○			電装 1	電気の基礎、磁気の基礎、半導体の基礎、モータ、発電機、バッテリー、点火装置、ボディ電装	1 通	94.7	3	○			○	○			
		○	二輪自動車 1	二輪エンジン内燃機関、二輪シャシ、二輪電気装置	1 前	25.2	1	○			○	○			
○			整備機器	整備の基礎知識、基本作業工具、測定作業機器、エンジン点検作業機器、シャシ点検作業機器、充電作業機器、清掃・洗浄作業機器、給油作業機器、昇降作業機器、その他の作業機器	1 通	57.6	2	○			○	○			
○			工作作業-1	エンジンベンチ製作	1 後	36.0	1				○	○	○		
○			測定作業-1	ダイヤルゲージ、ノギス・マイクロゲージ・定盤等使用法、シリンダボアゲージの使用法・シリンダボア測定、シリンダヘッド・ブロックの歪み点検、各計測機器にて測定	1 後	50.4	2				○	○	○		
○			エンジン整備 作業-1	日常点検、リフトアップ、エンジンオイル交換作業、車両周りの点検作業、冷却装置、各ベルト類の点検、交換、調整作業、エンジン分解	1 前	100.8	4				○	○	○		

○		エンジン整備 作業-2	潤滑装置・冷却装置、タイミングベルト・ラジ エータ脱着、エア抜き作業	1 後	115.2	4				○	○	○		
○		シャシ整備作 業-1	FFミッション分解・組立、ディファレンシャルの 分解・組立、フロントサスペンション脱着 リヤサスペンション脱着	1 前	108.0	4				○	○	○		
○		シャシ整備作 業-2	パワーステアリング種類・作動、分解・組立、実 車からの脱着、ホイール・アライメント、エア・ サスペンション	1 後	100.8	4				○	○	○		
○		電装品整備作 業-1	電気の種類、サーキットテスター作成、スタータ 作動、スタータ分解・組立・点検、実車からの脱 着、車上点検、スタータ性能試験方法	1 後	108.0	4				○	○	○		
○		故障探究作業 -1	12ヶ月定期点検整備 付加作業	1 後	122.4	4				○	○	○		
	○	二輪自動車整 備作業-1	750ccバイク取り回し練習、エンジン分解・組付、 バイクタイヤ脱着、チェーン調整、フロント フォーク分解・組付	1 前	25.2	1				○	○	○		
○		自動車検査作 業-1	車両のジャッキアップ作業 使用工具の名称、使い方 タイヤ脱着作業	1 前	36.0	1				○	○	○		
○		エンジン2	総論、自動車の材料・機械要素、基礎的な原理、 法則、自動車の諸元	2 通	54.0	2	○			○	○	○		
○		シャシ2	総論、安全装置及び付属品、潤滑及び潤滑剤、保 安基準適合性確保の点検	2 通	50.4	2	○			○	○	○		
○		力学・数学2	基礎的な原理・法則、自動車の諸元、国家試験過 去問題 演習	2 通	43.2	2	○			○	○	○		
○		電装2	計器、ホーン、ワイパー、ウォッシャー、警報装 置	2 通	43.2	2	○			○	○	○		
	○	二輪自動車2	燃料及び潤滑剤、整備・検査・点検、故障原因探 求	2 前	28.8	1	○			○	○	○		
○		自動車整備	国家試験過去問題 演習	2 通	194.4	7	○			○	○	○		
○		検査1	道路運送車両法の保安基準、自動車の構造、自動 車の装置、原動機及びシャシ関係、自動車の諸元	2 通	43.2	2	○			○	○	○		

○		法規 1	道路運送車両法、自動車の種類、登録制度、保安基準、点検整備制度、検査制度、認証制度、指定制度、	2通	43.2	2	○			○		○						
○		エンジン整備作業-3	インジェクションポンプ分解・組立、インジェクションノズル、予熱装置	2前	108.0	4				○	○		○					
○		シャシ整備作業-3	トルクコンバータの脱着、A/Tの分解・組付、A/Tの脱着、A/Tオイルの交換作業、車上点検	2前	108.0	4				○	○		○					
○		電装品整備作業-2	エアコンの点検・整備、配線図の見方、配線色、各種スイッチ類、リレーの点検、電気回路図の作成	2前	100.8	4				○	○		○					
○		故障探究作業-2	エンジン脱着及びO/H、走行試運転、24ヶ月定期点検、故障探究	2後	136.8	5				○	○		○					○
	○	二輪自動車整備作業-2	エンジンの分解・組付、キャブレター脱着、清掃、分解・組付、調整	2前	28.8	1				○	○		○					
○		自動車検査作業-2	企業実習	2後	36.0	1				○		○	○					
○		自動車新技術1	ハイブリッド車、無段変速機(CVT)、車両安定制御装置、SRSエア・バッグ及びプリテンショナ・シートベルト	3通	79.2	3	○				○		○					
○		エンジン3	電気回路と電子回路の基本、電気・電子回路の測定技術、高度整備技術、高度故障診断技術、高度故障診断技術	3前	216.0	8	○				○		○					
○		シャシ3	電子制御式AT、EPS、ABS、オートエアコン、騒音・振動	3後	266.4	9	○				○		○					
○		サービスマネージメント	自分を大切にする、マナーは誰のために見につける、ハイパフォーマンスを生み出すために、心構え、仕事の進め方、つきあい、ビジネスコンプライアンス、知識、準備と練習	3前	36.0	1	○				○		○					
○		工作作業-2	課題の制作	3後	28.8	1					○	○		○				
○		測定作業-2	オシロスコープによる電圧波形測定、外部診断器の活用	3後	43.2	2					○	○		○				
○		エンジン整備作業-4	電気回路・電子回路の電圧、抵抗、電流測定	3前	50.4	2					○	○		○				

○		エンジン整備 作業-5	サーキット・テスタによる電圧、抵抗、電流測定、オシロスコープによる電圧波形測定、外部診断器の活用	3 前	72.0	3			○	○	○		
○		シャシ整備作 業-4	ハイブリッド車点検・整備、CVT分解・組立	3 前	79.2	3			○	○	○		
○		シャシ整備作 業-5	A T、EPSの点検・整備	3 後	72.0	3			○	○	○		
○		シャシ整備作 業-6	A B S及びV S Cの点検・整備	3 後	50.4	2			○	○	○		
○		シャシ整備作 業-7	振動・騒音に関する故障診断、ノイズ感知テスタ、サウンドスコープ、振動・騒音分析器の活用、騒音計、故障診断方法、フラッタ、こもり音・ビート音、	3 後	64.8	2			○	○	○		
○		電装品整備作 業-3	エア・バッグ等、オート・エアコン	3 後	57.6	2			○	○	○		
○		故障探求作業 -3	エンジン不具合故障探求	3 前	86.4	3			○	○	○		
○		故障探求作業 -4	2 4 か月定期点検整備	3 前	57.6	2			○	○	○		
	○	钣金・塗装	軽钣金作業・下地処理・塗装・仕上げ	3 前	50.4	2			○	○	○		
○		自動車新技術 2	圧縮天然ガス自動車、筒内噴射式ガソリンエンジン、コモンレール式高圧燃料噴射システム	4 前	50.4	2	○		○	○	○		
○		総合診断	自動車整備に関する総合診断、応酬話法	4 前	28.8	1	○		○	○	○		
○		環境・安全	地球規模の環境安全と必要性、資源の有効利用、産廃処理の影響と対応、PRTR法、固定施設における環境保全、安全管理の意義、災害のあらまし、災害防止、応急処置についての心得	4 前	36.0	1	○		○	○	○		
○		機器取扱	オシロスコープ、外部診断機	4 前	21.6	1	○		○	○	○		
○		検査 2	道路運送車両の保安基準（使用過程にある自動車の保安基準の細目を定める告示）	4 前	50.4	2	○		○	○	○		

○		法規2	道路運送車両法、総則、自動車の登録等、点検及び整備、検査等、整備事業、雑則、施行規則の別表、点検基準	4前	28.8	1	○		○	○				
○		エンジン整備作業-6	直接噴射式エンジン分解・組み付け、構造・作動、コモンレールエンジン分解・組み付け、構造・作動	4前	57.6	2			○	○		○		
○		自動車検査作業-3	24か月定期点検整備、自動車検査の実務、サイドスリップテスト、ブレーキテスト、スピードテスト、ヘッドライトテスト、CO・HCテスト、オパシメーター	4前	36.0	1			○	○		○		
	○	钣金・塗装	軽钣金作業・下地処理・塗装・仕上げ	4前	57.6	2			○	○		○		
○		企業体験実習-1	整備に携わる業務を行う企業にて実習を行い、整備の実務に必要な知識を学ぶと共に、ビジネスマナーを身に付ける。また、一級自動車整備士として、必要な知識・技術の習得を目指す。	4前	108.0	4			○		○	○		
○		企業体験実習-2	整備に携わる業務を行う企業にて実習を行い、整備の実務に必要な知識を学ぶと共に、ビジネスマナーを身に付ける。また、一級自動車整備士として、必要な知識・技術の習得を目指す。	4後	108.0	4			○		○	○		
○		評価実習-1	体験実習での経験を生かし、点検整備作業、故障探究作業に取り組む	4前	223.2	8			○	○		○		
○		評価実習-2	体験実習での経験を生かし、点検整備作業、故障探究作業に取り組む	4後	360.0	13			○	○		○		
合計				61 科目	4911.5 単位時間(179 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：必修科目すべての単位取得 履修方法：授業時間のすべてに出席し、科目修了試験に合格	1学年の学期区分	前期後期	
	1学期の授業期間	前22週 後23週	

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。